

持続可能な農林水産業と食農バリューチェーン

ホーム > サステナビリティ > 農林水産業・地域 > 持続可能な農林水産業と食農バリューチェーン

農林水産業者所得の増加に向けて

当金庫は、担い手が抱える経営課題に対するコンサルティング活動、さらには食農関連企業等への出資・融資を通じたバリューチェーン構築支援等に取り組んでいます。

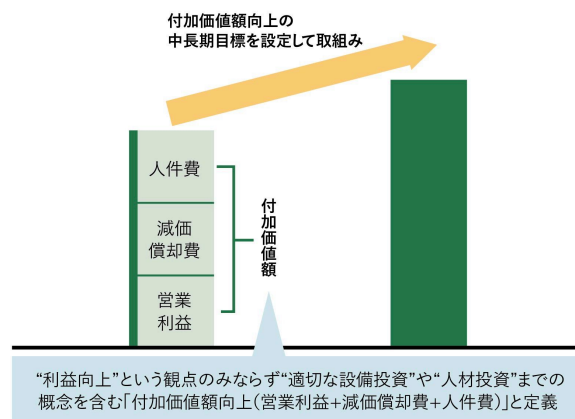
当金庫の出資・融資先へのコンサルティング等を通じて、いかに担い手の所得を引き上げていくか具体的な数値目標を設定し、取り組んでいるところです。

担い手の所得向上を統一的に捕捉していくための指標を「付加価値額向上」として定義し、中長期目標を設定のうえ、その達成に向けて取り組んでいます。

これにより、当金庫が担い手の所得向上に向けて持続的に貢献していくことを目指します。

付加価値額向上のイメージ

当金庫の出資・融資先へのコンサルティング等を通じ、農林水産業者の所得向上に向け持続的に貢献



担い手の所得向上に向けた取り組み

当金庫は信連、JAと連携し、担い手へのコンサルティング活動を強化しています。2021年度186件、2022年度301件、2023年度306件、2024年度349件実施し、担い手が抱える各種経営課題の解決に向けたソリューション提案を実施しました。また、担い手コンサルティングに際しては、ソリューションの提案にとどまらず、実施状況の確認、ソリューションの実現に向けた担い手へのサポートにも取り組んでいます。

農業経営の持続性向上に向けたソリューション提案とサポート

当金庫宇都宮支店取引先で、「循環型農業」を強みに肉牛肥育、WCS※用を含む水稻、アスパラガスの生産を複合的に営む「株式会社イソシンファーム（以下、当社）」に対して、当金庫と栃木県開拓農協が共同で担い手コンサルティングを実施しました。経営者に対するヒアリングや財務分析等を通じて、①創業者の営農技術の継承、②適切な事業規模の把握といった経営課題を認識しました。ソリューションとして、①事業承継を見据えた長期ビジョンを策定、②固有業務の棚卸や品目別収支分析に基づき、それぞれの品目の作付面積の最適化策等を提案しました。足元では、営農マニュアルの作成支援を行い、次世代への営農技術の継承に向けたフォローを継続しています。当社の一層の所得向上（＝付加価値額向上）に向けて、引続き、当金庫と栃木県開拓農協の連携による金融・非金融の支援を継続していきます。

※ 稲発酵粗飼料。稲の穂と茎を同時に刈り取ってロール状に成型し、乳酸発酵させた牛の飼料のこと



食農関連企業等へのバリューチェーン構築支援

当金庫は、農林水産業者所得の増加に向けた施策として、食農関連企業等への出資・融資を通じた食農バリューチェーンの構築支援に取り組んでいます。

トピック

地域産品を活用した新たなバリューチェーン構築支援

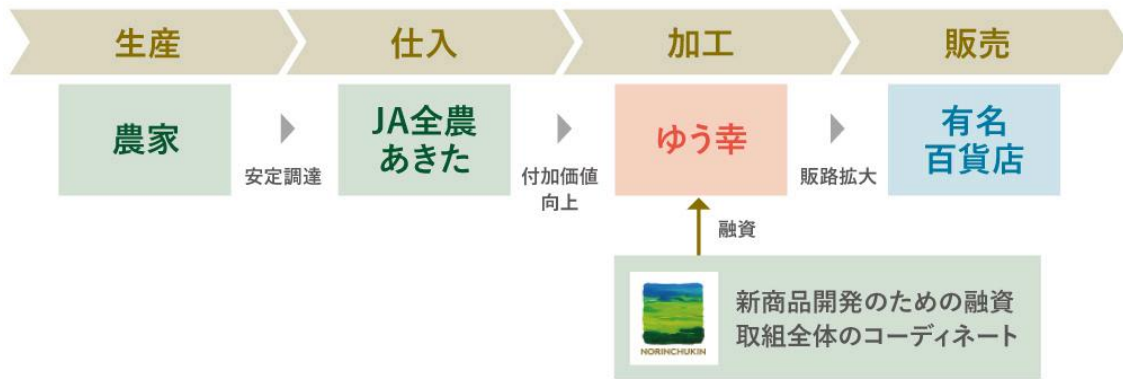
株式会社ゆう幸（以下、ゆう幸）は、秋田発菓子ブランド『くら吉』を展開し、1次加工から3次加工まで手掛ける企業です。首都圏の百貨店などに販路を有しており、高価格帯の商品販売に強みを持ちますが、原材料が県内の少数農家からの原材料仕入が中心であり、商品ラインナップが限定的という課題がありました。

そこで、集荷から販売まで一貫したバリューチェーン構築を目指すJA全農あきたとゆう幸との連携を当金庫がコーディネートしました。

当金庫からは、ゆう幸が行う秋田県産原材料を使用した新商品開発を融資により後押しし、これにより、JAかづの（秋田県鹿角市）産「北

限の桃」を使用した新商品の『くら吉』各店舗での販売を実現しました。

今後とも、生産者・産業界・消費者を繋ぐ、新たな食農バリューチェーンの構築による、農業の生産基盤維持・生産者所得の向上に取り組んでまいります。



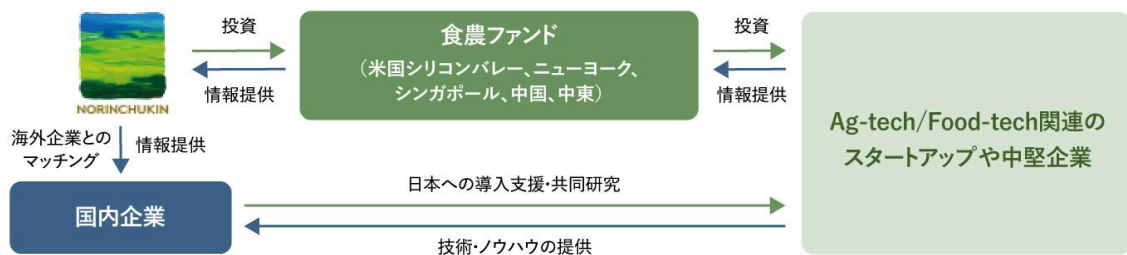
海外食農プライベートエクイティ（PE）ファンドへの出資を通じた本邦食農バリューチェーン構築支援

当金庫は、食品・農水産業のスマート化や脱炭素技術を持つベンチャー・中堅企業等へグローバルに投資する海外食農PEファンドへ出資しています。

投資先のポートフォリオには、以下のような農林水産業の先進的な技術をもつ企業があり、当金庫としてはこれらの技術革新や社会実装を支援するとともに、本邦食品・農水産業の現場への適用を進め、脱炭素化の着実な実現を図っています。

海外食農PEファンドが支援している主な技術

- 水資源の節約や土壌改良等の再生型農業
- 代替たんぱく質の発掘
- 果樹の海外輸出
- 青果物の鮮度保持技術（食品ロス削減等）
- 農地でのGHG固定化



「F&A成長産業化出資枠」等を通じたサステナビリティ課題解決への貢献

当金庫グループは、農林水産業の高付加価値化・生産性向上のため、系統団体および国内外との協働およびそれを支えるリスクマネーの供給を目的に、「F&A（Food and Agri）成長産業化出資枠」を設定しています。この出資枠を通じた出資により、農林水産業を取り巻くサステナビリティ課題の解決に貢献しています。

食品流通における物流DX・自動化の推進

当金庫グループのアグリビジネス投資育成では、株式会社PAL（以下、当社）への出資と事業連携を通じて、食品物流領域のDX・自動化の推進に取り組んでおります。

物流業界は、深刻な労働力不足や「物流の2024年問題」（トラックドライバーの時間外労働時間の上限規制強化等）に加え、温室効果ガス（GHG）排出量の可視化・削減を求められるスコープ3対応等、持続可能性の観点で多くの課題に直面しており、サプライチェーン全体のデジタル化や自動化の推進を通じた生産性向上への取り組みが近年ますます求められています。特に食品流通は、少量多品種、不定質、三温度帯への対応といった特性から、自動化やデジタル化のハードルが高い分野とされています。

当社は、食品小売・流通事業者の物流現場における生産性向上に豊富な実績を持ち、食品領域をはじめとする物流現場の課題に対する各種ソリューションを提供しています。例えば、当社が提供する「デジトラックソリューション」は、トラックの運行状況や業務進捗の可視化によって、非効率な配送ルートや待ち時間を特定し削減することで、トラック便数の削減により物流コストを抑制することや、トラックドライバーの負荷軽減等にも貢献しています。

当金庫グループは、系統組織等のネットワークを活用し、当社が手掛ける物流ソリューションの普及をサポートすることで、食品流通の合理化・効率化に貢献し、SDGsをはじめとしたサステナブルな社会の実現を推進いたします。

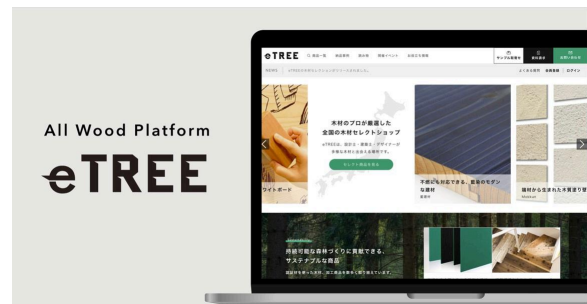


木材情報プラットフォーム構築による国産材流通の活性化

「Sustainable Forest」をミッションに掲げ、森林・林業・木材に関するあらゆる情報を集約したプラットフォームの構築を目指す株式会社森未来（以下、当社）に対して、当金庫グループのアグリビジネス投資育成より出資を行いました。

当社は、木材情報を集約した設計者・デザイナー向けの木材プラットフォーム『eTREE（イーツリー）』の開発・運営、そして、持続可能性に配慮された森林認証材やトレーサビリティの担保された木材のコーディネート事業を行っています。これらの取り組みを通じて、誰もが木材を扱いやすく、生産者に適切な利益が還元される木材流通を実現し、森林の持続可能性に貢献しています。

当金庫グループは、系統組織等のネットワークを活用して当社が手掛ける事業をサポートすることで、国内農林漁業、関連産業および地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。



持続可能な食料供給への貢献

なお、当金庫はNTTグループと、「5G関連投資」「高効率かつ省電力を実現するデータセンター」「再生可能エネルギー」などの事業を資金使途とするグリーンローンの契約を2022年8月に締結しています。

地域資源の有効活用を通じたサーキュラーエコノミーへの貢献

小川香料株式会社（以下、当社）における岡山県産農産物の知名度向上や地域活性化の取組みに貢献するため、当金庫は、当社および全国農業協同組合連合会岡山県本部と事業連携協定を締結しました。

本取組みは、JAグループのネットワークを活用して農林水産物の未活用資源（廃棄される果物の皮等）を持つ生産者と当社をマッチングし、当社が未活用資源を使用して香料原料を開発するものです。具体的には、岡山県の名産品である桃の生産過程において摘み取られていた桃花を活用した「岡山県産桃花」の香料開発や、加工品製造過程で廃棄されていた白桃の皮やマスカット・オブ・アレキサンドリアの残渣を活用した「岡山県産白桃」、「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の香料開発が実現しました。名産品を香料の原料として使用することで、その知名度やブランド向上も期待されます。

従来は廃棄されていた未活用資源を活用することで、農林水産業者の所得増大、環境負荷の軽減を図るとともに、香料を通じた農林水産物の付加価値向上を目指して地域一体となって取組みを進めています。



～JA全農おかやまよりご提供～